

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
理事長	山下 静也
診療局参与	永井 義幸
主任部長 兼心臓・血管センター副センター長 兼リハビリテーション副センター長 兼医療安全管理副室長	習田 龍
部 長 兼健康管理副センター長 兼先進医療開発センター長 兼ドクターサポートセンター長 兼認知症ケアセンター長兼産業医	増田 大作
部 長	牧野 信彦
医 長	正木 豪
医 長	義間 昌平
副医長	阿部 誠
医 員	北山 詩奈子
医 員	迫 恒志
非常勤医員	福田 忠浩(9月退職)
非常勤医員	緒林 秀和
非常勤医員	鳥居 南見

＜特色と概要＞

当院は、泉州地域の医療圏の要となる病院として、院内に救命救急センター、母子医療センター、感染症センターなどの高度な医療センターが集積する三次救急医療センターである。このことから、これら救急部門からの多くの症例が当循環器内科へと転科してくることにより、多彩かつ重症の急性期の循環器疾患を多く診療している。さらに、広い泉州の多くの連携医療機関から急性期・慢性期を問わず多くの循環器疾患や循環器疾患を疑う症状を訴える患者が紹介されてくる。その上、当院の他科やこれら連携医療機関で治療中の他の疾患に合併する循環器疾患に対しても治療を行うことから、当院の循環器内科医は循環器領域の知識のみならず、他科に関連した総合的な幅広い領域の知識が要求される。このため、日々診療技術の向上に努めつつ連携医療機関や他科と協調して診療にあたっている。

当科の診療実績としては次項に示す通りである。数多くの循環器疾患及びその関連疾患を救命救急センターや救急外来、また近隣のプライマリケア医から継続して受け入れている。疾患としては多岐に渡り、近隣のご協力もあり外来患者数、入院患者数とも増加している状態にある。疾患としては虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)、心停止、致死性不整脈や心房細動・粗動、末梢血管疾患や弁膜症、感染性心内膜炎など多くの疾患が該当している。特に、当院の特色としての救急症例の多さが挙げられる。また、脂質異

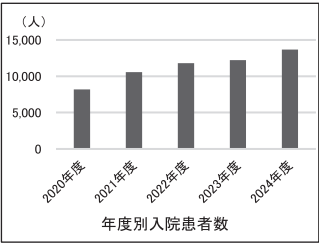
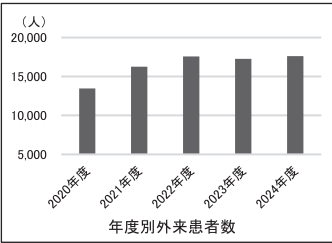
常(遺伝的な原発性のものを含む)や睡眠時無呼吸症候群など、心血管疾患の一次予防・二次予防に対しても専門的な治療を継続して行っている。

＜実績＞

- ・外来患者数、入院患者数(延べ人数)
- ・入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)
- ・循環器内科の検査・治療数

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020年度	13,453	55.4	8,179	22.4
2021年度	16,237	67.1	10,564	28.9
2022年度	17,557	72.3	11,806	32.3
2023年度	17,246	71.0	12,213	33.4
2024年度	17,595	72.4	13,686	37.5



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)
(期間2024/4/1-2025/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
無痛性<無症候性>心筋虚血	I256	148
心不全, 詳細不明	I509	133
その他の型の狭心症	I208	116
発作性心房細動	I480	112
うつ血性心不全	I500	106
急性心筋梗塞, 詳細不明	I219	78
心房細動及び心房粗動, 詳細不明	I489	75
持続性心房細動	I481	63
睡眠時無呼吸	G473	59
(四)肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症), えく壊>痕なし	I7020	35
上室(性)頻拍(症)	I471	31
不安定狭心症	I200	29
心臓電子器具の機械的合併症	T821	29
全身性及び詳細不明のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症), えく壊>痕なし	I7090	27
房室ブロック, 完全	I442	23
洞不全症候群	I495	20
狭心症, 詳細不明	I209	20
アテローム<じゅく<粥>状>硬化性心疾患	I251	14
急性肺性心の記載のない肺塞栓症	I269	12
房室ブロック, 第2度	I441	11
大動脈弁狭窄(症)	I350	11
陳旧性心筋梗塞	I252	11
慢性虚血性心疾患, 詳細不明	I259	11
エマーゲンシーコードU07.1	U071	10
下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	I802	9
蘇生に成功した心停止	I460	8
心室(性)頻拍(症)	I472	8

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
左室不全	I501	8
心室性早期脱分極	I493	8
下壁の急性貫壁性心筋梗塞	I211	6
記録されたれんく嚢>縮を伴う狭心症	I201	6
下肢の動脈の塞栓症及び血栓症	I743	6
前壁の急性貫壁性心筋梗塞	I210	6
肺炎, 詳細不明	J189	5
その他及び詳細不明の房室ブロック	I443	5
慢性心房細動	I482	5
大動脈の解離[各部位]	I710	5
(四)肢の動脈のアテローム<じゅくく粥>状>硬化(症), えく壊>症あり	I7021	4
高カリウム<K>血症	E875	4
全身性及び詳細不明のアテローム<じゅくく粥>状>硬化(症)	I709	4
不整脈, 詳細不明	I499	3
その他及び複合部位のサルコイドーシス	D868	3
その他の急性腎不全	N178	3
急性心筋炎, 詳細不明	I409	3
その他の診断名不明確な心疾患	I518	3
貧血, 詳細不明	D649	2
胸水, 他に分類されないもの	J90	2
その他の明示された心ブロック	I455	2
食物及び吐物による肺臓炎	J690	2
細菌感染症, 詳細不明	A499	2

検査治療数集計

診療明細名称	件数
心臓カテーテル検査	482
心臓カテーテル法による諸検査(右心)	121
心臓カテーテル法による諸検査(左心)	361
冠動脈カテーテル治療	574
経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	170
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞に対するもの)	30
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症に対するもの)	44
経皮的冠動脈粥腫切除術	2
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	184
経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞に対するもの)	26
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)	26
経皮的冠動脈形成術(不安定狭心症に対するもの)	49
経皮的冠動脈血栓吸引術	43
経静脈ペースメーカー	40
ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	36
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	1
両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	3
リードレスペースメーカー	22
ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)	22
植え込み型除細動器(ICD)	14
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの)	1
植込型除細動器移植術(皮下植込型リードを用いるもの)	1
植込型除細動器交換術(その他のもの)	5
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合) 重複あり	2
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)	2
両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	2
両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	1
除細動機能付両室ペースメーカー(CRT-D)	2

両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合) 重複あり	2
カテーテルアブレーション	235
経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他のもの)	31
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの)	204
冠動脈CT検査	676
冠動脈CT撮影加算	676
経食道心臓エコー検査	195
超音波検査(心臓超音波検査)(経食道心エコー法)	195

(診療報酬請求の番号の発出を元にカウントした件数)

<今年度の反省と来年度への抱負>

- ・泉州地区における重症循環器疾患診療の砦として、例年どおり救命診療科など他部門と密に連携を取りながら循環器疾患診療を行い地域医療に貢献した。
- ・永年に亘り当院の循環器診療に多大な貢献をしてくれた村木良輔医師が退職されたが、新たなスタッフとして北山詩奈子医師、非常勤医員(専攻医)として緒林秀和医師および鳥居南見医師が加わり、若返ったメンバーで患者数の増加に対応した。
- ・習田部長の専門とする虚血性心疾患に対する冠動脈形成術、下肢血管疾患に対する血管内治療、牧野部長の専門とする不整脈疾患に対するカテーテルアブレーションおよびペースメーカー留置など侵襲的治療を積極的に行った。
- ・山下理事長・増田部長の専門とする脂質異常・睡眠時無呼吸症候群などの専門分野に対する紹介や症例の集積も次第に増加している。
- ・特に、治療困難例など多数の患者を地域の健康診断及び他院から御紹介いただき、適切な診断と治療介入を行うことで地域医療及び予防に貢献した。
- ・上記疾患が引き起こす心不全に対しては心臓・血管センターのチームが一丸となって総合力で対応を行った。
- ・本年度は念願のハイブリッド手術室の稼働に伴い、近年増加している心臓弁膜症疾患に対するカテーテル治療を開始すべく、多職種で構成されるハートチームを結成し、2025年1月から経カテーテル的大動脈弁植え込み術を開始した。
- ・国内、国外の学会に臨床研究に関する報告や学会・講演会での発表を多数行った。多数の英文原著論文・総説を著名雑誌に報告し、Rinku General Medical Centerの名を世界に広めることができた。
- ・引き続き重症三次救急例や近隣の病診連携医からの紹介例に適切に対応し、侵襲的治療件数をさらに伸ばすべく尽力したい。